

工學士近藤基樹君ノ軍艦ノ設計ニ對スル授賞審査要旨

帝國軍艦ニシテ、其ノ設計工學士近藤基樹君ノ手ニ成リ、既ニ建造セラレタルモノ、戰艦四隻、裝甲巡洋艦四隻、二等巡洋艦六隻、一等砲艦二隻、二等砲艦三隻、一等驅逐艦二隻、二等驅逐艦二隻、三等驅逐艦三十八隻ノ多キニ達シ、孰レモ竣功後ノ成績極メテ良好ナリ、中ニ就テ最モ君ノ創意的技倆ヲ發揮シタルハ、戰艦薩摩、安藝及裝甲巡洋艦筑波、生駒ノ設計是ナリ。

右兩級ノ軍艦ハ、明治三十七八年戰役ノ初ニ設計セラレタルモノニシテ、當時諸外國ニ於テハ、尙ホ未ダ斯ノ如キ巨大ノ艦型ヲ採用セズ、斯ノ如ク多數ノ大口徑砲ヲ裝備セザリシナリ。

英國ガ將來ノ艦型ヲ選定スル爲メニ調査委員ヲ任命セシハ、明治三十七年十二月ニシテ該委員ノ決議ニ基キ戰艦どれつとのーと及巡洋戰艦ト稱セラルルいんぶんしぶる級ノ設計セラレタルハ翌三十八年ノ事ナリ、然ルニ我筑波艦工事着手ノ命令ハ明治三十七年六月ニ、薩摩艦着手ノ命令ハ翌三十八年一月下旬ニ發布セラレタリ、故ニ薩摩筑波ノ設計ハどれつとのーと、いんぶんしぶるノ設計ニ先チタルコト約一ケ年ナリ、則薩摩筑波ノ設計ハ未ダ嘗テ類例ヲ見ザル所ノモノニ屬ス、是等ノ軍艦ガ皆良好ノ成績ヲ擧ゲタルハ、全ク設計者ノ學識技倆ニ於テ卓越スル所アルニ由ル。

右ノ外、我海軍ガ明治二十七八年ノ戰役ニ因リテ得タル經驗ニ基キ、近藤君ガ艦船ノ内部ノ構造及艤裝ニ於テ創意的改善ヲ施シタル點頗ル多シ。機械水雷ニ對スル防禦、吃水線附近ノ甲鐵帶ノ擴張、

甲鐵帶ノ下部ニ於ケル副防禦、艦首樓ノ設備、艦首ノ形狀ノ變更、驅逐艦ニ於ケル船尾ノ形狀ノ變更等はナリ、是等ハ孰レモ有効ナル改善ニシテ、爾來外國ニ於テモ之ニ倣フモノ往々之アリ。

以上陳ブル所ニ由リ、近藤君ノ研究ガ造船學ニ貢獻スルコト多大ニシテ、同君ノ學術上ニ於ケル功績ノ偉ナルヲ觀ルベシ、而シテ授賞審査委員ハ特ニ筑波級巡洋艦ノ設計ヲ舉ゲテ授賞ノ目的ニ推薦ス。

筑波級ノ軍艦ハ、巡洋艦ニシテ戰闘艦ト同様ナル武裝ヲ有スルモノナリ、而シテ筑波ハ所謂巡洋戰艦ノ第一ニ生レ出タルモノニシテ、各國ノ巡洋戰艦ハ皆筑波ノ妹ニ外ナラズ、此ノ未曾有ノ艦型ヲ有スル筑波級ノ成績ノ良好ナルハ大ニ稱揚セザルベカラズ。

艦船ノ武裝ヲ強大ニシ、防禦ヲ完全ナラシメンニハ、自然船體ヲ大ニセザルベカラズ、而シテ出來得ル限り小ナル船體ヲ用ヒテ同一ノ目的ヲ達スルコトハ極メテ困難ノ事ニ屬ス、筑波級ノ四巡洋艦ハ此ノ點ニ於テ最モ成功セルモノト云フベシ、之ヲ英國海軍ニ徵スルニ、ぶらつくぷりんす艦は、排水量一萬三千五百噸、馬力二萬三千五百、速度二十六節三、武裝九・二吋砲六門、六吋砲十門ヲ有スルニ、我筑波、生駒ハ各排水量一萬三千七百五十噸、馬力二萬五百、速度二十節五、武裝十二吋砲四門、六吋砲十二門、四・七吋砲十二門ヲ有セリ。又まいのどわ艦ハ、排水量一萬四千六百噸、馬力二萬七千、速度二十三節、武裝九・二吋砲四門、七・五吋砲十門ヲ有スルニ過ギザルニ、我伊吹、鞍馬ハ、各排水量一萬四千六百餘噸、武裝十二吋砲四門、八吋砲八門、四・七吋砲十四門、速度

ハ鞍馬ニ於テ二十一節四分ノ一、其馬力ニ萬二千五百、伊吹ニ於テ二十二節四分ノ三、其馬力ニ萬七千ナリトス、即チ武裝ニ於テノ優勢ハ我四艦ニ在リ、此ノ如キ結果ヲ得ンガ爲メニハ、船體ノ幾何學的曲面、重量ノ配置、其ノ節約、構造ノ強弱剛柔、進行ニ對スル抵抗、動搖ニ對スル安定等、各種ノ事項ニ就キ設計者ハ極メテ周到ナル注意ト明晰ナル判斷トヲ以テ、優秀ナル學術ノ應用ヲ爲シタルコト言ヲ俟タザルナリ。